

海外運用の先駆者達 ~ 20 世紀に海外でアマチュア無線を運用した日本人達~

その 96 今回の記事は 1994 年のオセアニアの後半 1994 年 (7)

「あの人は今 (第 21 回)」 JR1NHD 田中真氏

JA3AER 荒川泰蔵

■ 今回の記事は 1994 年のオセアニアの後半

今回は 1994 年の 7 回目でオセアニアの後半で、CQ ゾーンの 31 と 32 の国々です。尚、今月の「あの人は今 (第 21 回)」は、JR1NHD 田中真氏の紹介です。

■ 1994 年 (ハワイ AJ1A/KH6)

JH3OI 中村千代賢氏は、ハワイで運用した時の様子をアンケートで送ってくれた。「2m ハンディー機だけ持って行きましたが、AJ1A/KH6 で各地のリピーターにアクセスし、約 30 局と QSO ができました。ワイキキからは、146.88MHz のダイヤモンドヘッドのリピーターが文句なしに Full Quieting でアクセスでき、ホノルル市内では場所により 147.27MHz 等が FB です。短い滞在でしたが、現地の人とアイボール QSO ができ、ホノルルカウンティの民間防衛局を見学させて頂きました。また、HF とリンクできるリピーターもありました。(1994 年 8 月記)」

■ 1994 年 (マーシャル諸島 V73BH)

JA3IG 葭谷祐治氏は、V73BH でマーシャル諸島のマジュロで運用したとアンケートを寄せてくれた。「1994 年 4 月、MAJURO 一番の高級ホテル、ロバートライマーより ON AIR しましたが、このホテルの周りには高い木がなく、2階よりワイヤーアンテナを張れませんでした。このホテルはアンテナの件で向いておりません。しかし、40m から 15m の CW と SSB で、約 800 局と QSO できました。次は 10 月頃ロイヤルガーデンホテルとかいうホテルで QRV する予定です (このホテルも木があるかどうかは分かりません)。次回リポートします。(1994 年 11 月記)」

■ 1994 年 (ナウル C21/IG)

JA3IG 葭谷祐治氏は、ナウルから C21/IG で運用したと、アンケートを寄せてくれた。「ナウルの唯一の国営メネンホテル (Menen Hotel) は Room も Foods も FB です。アンテナを張るヤシの木は沢山あります。Nauru は Visa が必要です。Transit Visa で入国したので 5 日間滞在でしたが、7~28MHz の CW と SSB で、約 2,000 QSO 出来ました。そのあと T30GI と V73BH を再び運用して来ました。(1994 年 11 月記)」

■ 1994 年 (ナウル C21/IG)

JA3IG 葭谷祐治氏は、ナウルから C21/IG で運用したと、アンケートを寄せてくれた。「ナウルの唯一の国営メネンホテル (Menen Hotel) は Room も Foods も FB です。アンテナを張るヤシの木は沢山あります。Nauru は Visa が必要です。Transit Visa で入国したので 5 日間滞在でしたが、7~28MHz の CW と SSB で、約 2,000 QSO 出来ました。そのあと T30GI と V73BH を再び運用して来ました。(1994 年 11 月記)」

■ 1994 年 (東キリバス T32WP, T32X)

JA1WPX 下市忠雄氏は、東キリバスでの T32WP の運用を、CQ 誌の編集部経由のアンケートで知らせてくれた (写真 1 及び 2)。「オスカーで初めての運用を目標にして、ウインドウの開けていない時 HF の運用を行う予定で計画を立てました。運用地は東キリバス (ライン諸島) の内のメインの島、クリスマス島です。ハワイより 1 週間に 1 往復 BC-737 による定期便があります。宿はキャプテン クック ホテルで 99% のビジターはこのホテルよりの運用です。日本のダイブクラブ等のインストラクターもおり、日本よりの予約も可能なようですが、

無線だけをやるならアメリカの旅行社の3食付き6泊7日のパッケージツアーが便利です。主に釣り客向けのガイド付きパックですが、ダイバーや無線目的で釣りをやらない場合ノンフィッシャーマンパックがありこれを利用しました。ハワイの代理店の女性責任者のご主人がハムをやっているの、無線を運用すると言えばビーチに近いバンガローが借りられます。免許は約1カ月で入手できます。オーストラリアドルで\$21ですが、書類不足の時等の連絡(FAX)費を含めてA\$30を送りました。電信が出来ない場合はノビス級になると思います。ライセンス以外に規則集を送ってきます。Max. 400W PEPですが、1.8MHzは26.7W PEP, 50MHzは150W PEP出力です。私はゴールデンウイークを利用して9泊11日でした(ハワイで待機)が、フライトが遅れて1日無駄になったり、アンテナが一時行方不明なるなど、またHFのRIGが故障して現地のCBよりCWフィルターPEP出力です。私はゴール

デンウイークを利用して9泊11日でした(ハワイで待機)が、フライトが遅れて1日無駄になったり、アンテナが一時行方不明なるなど、またHFのRIGが故障して現地のCBよりCWフィルター無しのリグを借りる等のトラブルがありました。が、正味250局以上にオスカーのニューカントリーをプレゼントできましたし、14, 10, 7及び3.8MHzのCWでもベアフットながら多くの局とQSOできました。しかし18~28MHzはコンディションが悪くて少数の局とのみのQSOに終わりました。(1994年9月記)

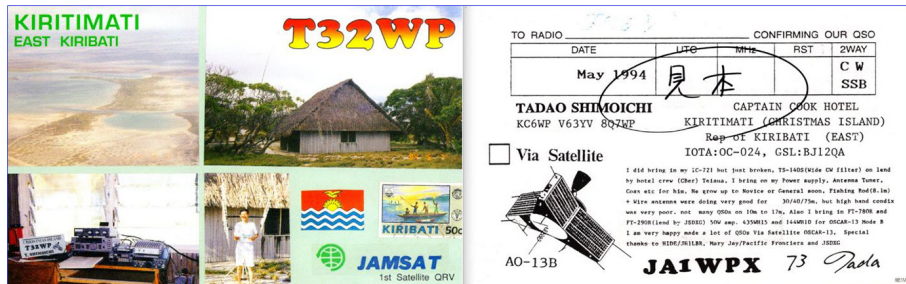


写真1. T32WP 下市忠雄氏のQSLカード表と裏。

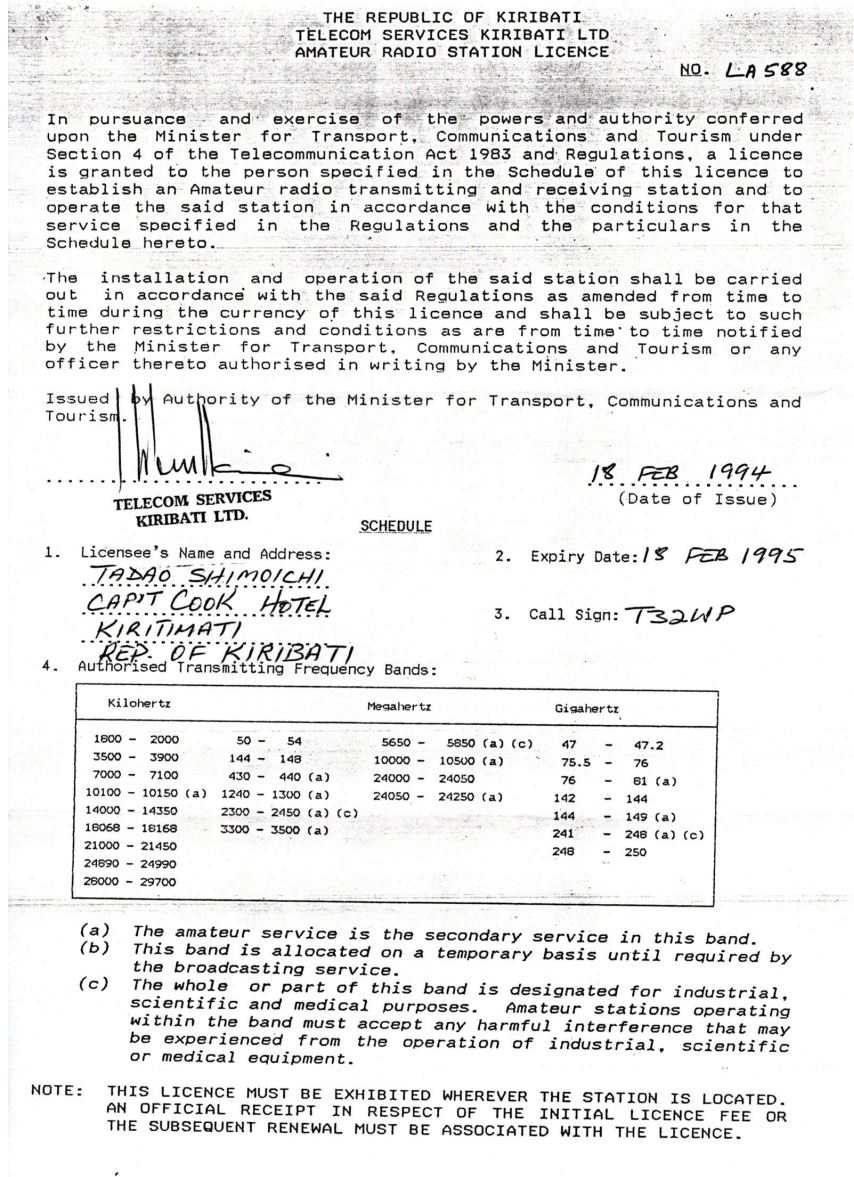


写真2. T32WP 下市忠雄氏の免許

JA4GXS 佐々木研己氏は、東キリバスのクリスマス島から、1994年12月28日から翌1995年1月3日に掛けて、T32Xのコールサインで、1.9～28MHzのCWとSSBで、2,883QSOをしたと、QSLカードや沢山の写真を添えてアンケートを送ってくれた(写真3～5)。「T32Xの詳細は、月刊ファイブナイン誌1995年5月号に掲載されています。QSLカードは、SASE分は即発行しましたが、その他の分は8月にJARLへ発送を完了しました。(1995年12月記)」ということで、その月刊ファイブナイン誌1995年5月号を拝見しますと、4ページに亘り「クリスマス島DXヴァケーションの記録」と題した記事が掲載されていました。詳しい内容は省略しますが、

山口宇部空港から出発し、羽田空港でJR5JAQ/T32J山尾さん、JA5EXW/T32A佐伯さんと合流して、リムジンバスで成田空港へ。そこからハワイ経由でクリスマス島へ渡り、The Captain Cook Hotelで運用されたとのこと。

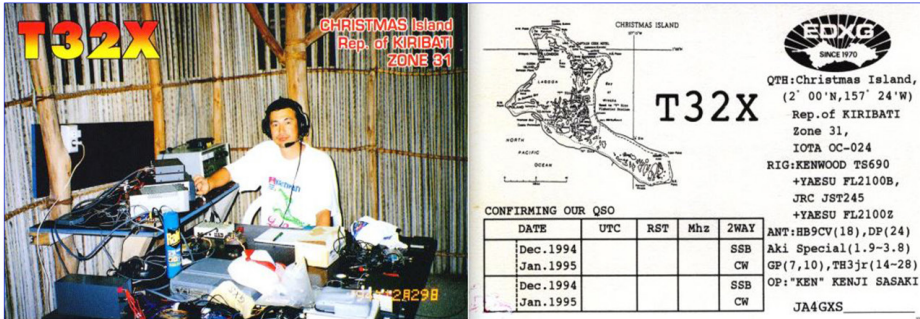


写真3. T32X 佐々木研己氏のQSLカード表と裏。



写真4. (左) 経由地のホノルル空港にて、左からJR5JAQ/T32J山尾氏、T31BA, T31BB 夫妻、JA4GXS/T32X 佐々木氏、JA5EXW/T32A 佐伯氏。(右) 搭乗したAir Marshall IslandsのDC-8機。

「MAURI (こんにちは!) from KIRITIMATI I.」 クリスマス島DXヴァケーションの記録 T32X/JA4GXS 佐々木研己

真夏の夜の夢の出来事
それは、暑い暑い平成6年8月18日午後8時17分、「慶徳の山尾さんから電話よ」という妻の呼び声で始まった。電話に出ると「T32Xに行こうと思っただけでいいから、T32Xのコールサインだけでも取れるといいなあー。アンテナが必要ならJ D 1へ行ったらいいのさ。そのまますに入れてあるから、3エレコトイバスター、伸縮ポール、スターの3点セットを運ぶよ。」
クリスマス島行きの船が通る。妻(J F 4 L N O)、山尾さん(J R 4 Q Z H)、山尾さん(T 3 2 J N / J 取 8 J A Q)、佐伯さん(T 3 2 A U / J A 5 E X W)、私(T 3 2 X / J A 4 G X S)の乗客5人で行く計画になったが、最終的には山尾さんと山尾さんの都合でどうしても参加できなかった。
ほんとうにクリスマス島へ行くの!?
12月26日10:00 山口宇部空港から羽田へ飛び、そこで山尾さん、佐伯さんと合流。リムジンバスで成田空港へ向かい、空港で待っていた機材を受け取ってユナイテッド航空のカウンターで搭乗手続きをした。アンテナは長いため超過料金4万8千円を請求された。スーツケースは重量オーバーのため荷物の詰め直しをすることになり4回も詰め直しをしてようやくバス。
ホノルル行きUA822機は20:45に成田空港を離発。退屈な機内では映画のビデオ「FORREST GUMP」「MASK」を観ていた。5時間37分でホノルル空港到着。山口～東京間の新幹線がかかる時間(6時間)よりも短い。ここで、前時計をホノルル時間 07:37に直し、日本との時差は19時間。これはクリスマス島も同じだ。
重いアンテナ等の荷物は、空港近くのコンロッキーに預けようとしたが預け方が分からず苦勞だった。やっとのことで荷物を預けて、Holiday Inn Honolulu

Air Port Hotelのシャトルバスを呼びホテルにたどりついた。チェックイン後部屋に入ると、3人なのになんとベッドは二つしかなかった……。
クリスマス島行きの航空券とツアー説明書は、ハワイの旅行会社によれば一向はこのホテルに預けてあるはずだったが、ホテルのフロントでは「預かっていない。担当の者は今日は休みだ。連絡をとってみるの。部屋で待っていてくれ」とのこと。航空券がないと飛行機に乗れない。ハラハラしながら部屋で待っていると30分後にホテルで保管されていた航空券とツアー説明書が見つかった。キレヤレ。
ホノルル発クリスマス島行き船記
12月27日03時にホテルを出てホノルル空港の搭乗手続きカウンターに向かった。カウンターの中にはT 3 1 B AとT 3 1 B B (T32Xがコールサインが書いてあったので分かった)がわざわざ見送りに来てくれた。一緒に写真を撮りクリスマス島からQSOすることを約束した。又、The Captain Cook Hotelのゲストハウスを借りると良いとのアドバイスを貰った。このカウンターでもアンテナの超過料金を請求されると思っていたら、「Very heavy but no problem」ということで、ヘビーのシールをスーツケースとアンテナの箱にペタペタ貼られただけで超過料金は請求されず、マーシャル航空のDC-8に大層びびりながら乗った。04:25にホノルル空港を離発。07:20にはクリスマス島に無事到着した。飛行機に乗っていた時間は成田から8時間32分、J D 1 (小笠原諸島発)に行った時は約28時間もかかった。もちろん船酔いはない。
キリバスの税関で検査
着陸すると、飛行機の窓越しにヤシの木がたくさん見えた。バラック建ての空港ビル?でキリバスへの入国手続きだ。税関では、バッグを全部開けて持ち物の



↑クリスマス島、Cassidy International Airport. ホノルルからDC-8で3時間。

Application for a Licence to Operate an Amateur Wireless Station in the Republic of Kiribati

- Full Name of Applicant
- Postal Address
- Nationality Place of Birth
Passport Number(if any)
- Age Date of Birth
- If applicant is under 21years of age the following information is to be given:
a. full name of parent or guardian
b. Nationality
c. Relationship to Applicant
d. Postal Address
- Particulars of any experience in working wireless transmitting apparatus.
- Particulars of any certificates of Proficiency in radio telegraphy or telephony
- Speed at which the applicant can send and receive in the morse code.
- (Overseas applicant only)
Address to which correspondence should be sent in your own country. Add dates if relevant.
- Address in Kiribati to which correspondence should be sent. Add date if relevant.
- Is this application for a fixed or mobile licence? (Separate licence are required for each).
- State the address or location at which the station will be operated and for what period.

写真5. (左)T32X 佐々木氏が投稿した「ファイブナイン」誌1995年5月号の記事の一部。(右) キリバスの免許申請書様式。

■ 1994年 (サモア 5W1AS)

JA3JM 清水彰夫氏は、一連の南太平洋 Island Hopping の終盤に西サモアでのアピアで運用したと、アンケートを寄せてくれた(写真6及び7)。「1994年1月に運用。ライセンスは5W1ASで1年間有効でした。申請手数料はWS\$15(US\$でも受け付けてくれるようです)です。申請書を早めに郵送しておけば事前に入手できます。ホテル(Le Godinet Beachfront Hotel)は、最初(1992年)にニウエに行く際、トランジットで寄ったときに頼み込んで、深夜の出発時刻まで数時間休憩させてもらったところです。ホテルの敷地はあまり広くなく、3.5MHzのインバーテッドVがやっとです。2階の手すりにアンテナポールを取り付け可能です。ロケーションとしては東側が道路を隔ててすぐに海ですが、北向きにもFBです。P.T.T.はポストオフィスの2階にあります。建物の右端に階段があります。ホテルから歩いて行ける距離です。ダウンタウンまでは空港から空港バスで40分ほ

結果は、3.5~28MHzのCW, SSB, RTTYとAO-10/13で、737QSOでした。(1995年2月記)」CQ誌1994年3月号の他に、ラジオの製作1995年2月号に掲載されたとコピーを送ってくれた。

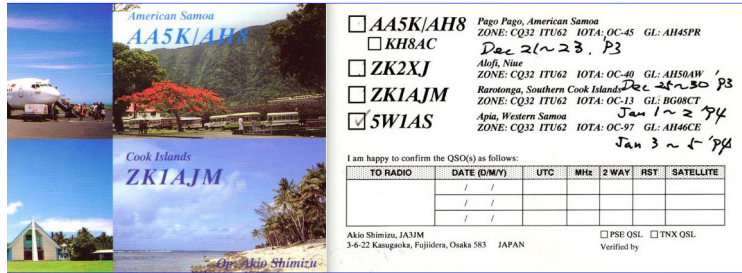


写真6. 5W1AS 清水彰夫氏のQSLカードの表と裏。



写真7. 5W1AS 清水彰夫氏が投稿した「ラジオの製作」誌1995年2月号の記事。

■ 1994年 (ニューカレドニア FK/7K1WLE)

7K1WLE 小林久氏は、FK/7K1WLE の臨時免許を得て、グループでニューカレドニアのMaitre 島で運用したとアンケートを寄せてくれた(写真8及び9)。「私他に、FK/JM1WBB, FK/JN1BSH, FK/JO1SIT, FK/JP1IHTが、同時に運用しました。運用結果は全員で、160mから10mまでのCW, SSBで、合計2,573QSO(47カントリー)でした。私はその内、CWで890局、SSBで50局でした。5名中4名は、日本出国前にTemporary radioamateur licence (Notification) を入手していたが、他の1名は、Telecomで直接パスポート、従免、局免を提示し、約10分でTemporary Licence を入手できました。Telecomの担当者からは、英文証明は必要な

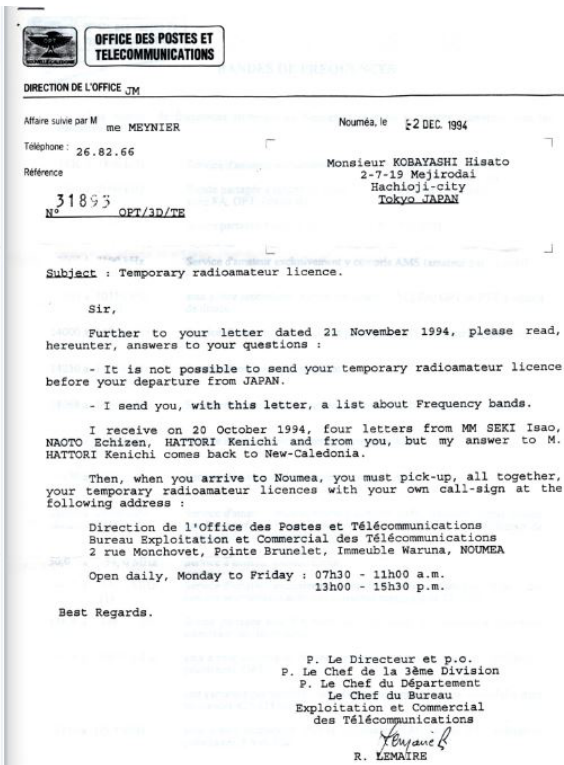
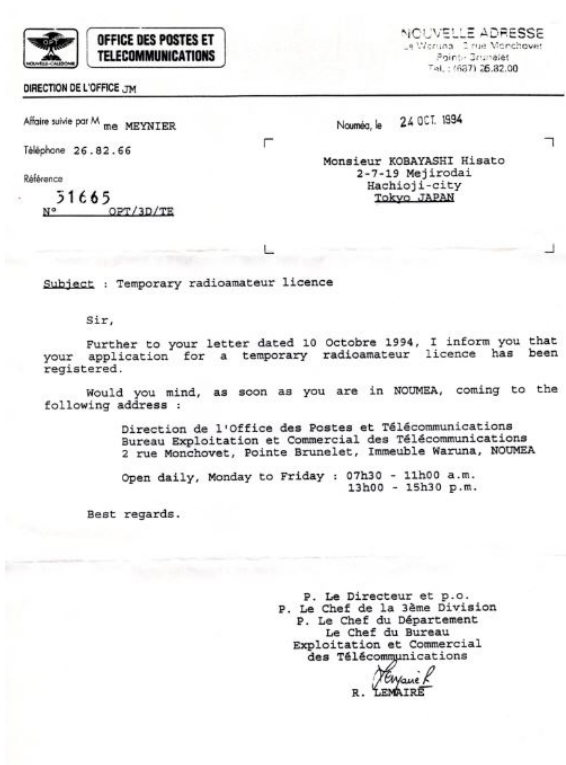


写真 8. FK/7K1WLE 小林久人氏宛て、ニューカレドニアのP.T.T.からの免許状に関する通知レター 2 通。

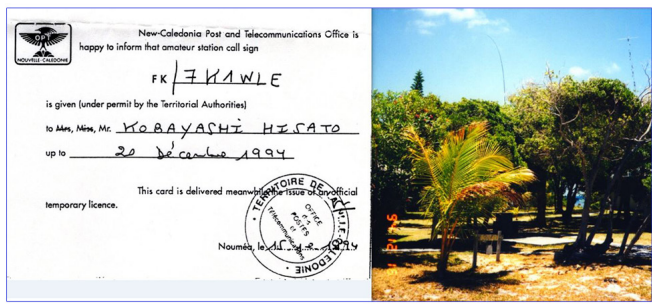


写真 9. (左)FK/7K1WLE 小林久人氏の臨時免許状。(右)FK/7K1WLE 小林久人氏達が運用したロケーション。樹木の後方にアンテナが見える。

■ 1994 年 (トンガ A35XC)

JE1DXC 三原正義氏は、A35XC の免許を得て、トンガで運用したとアンケートを寄せてくれた (写真 10 ~ 12)。「運用日:1994 年 7 月 14 日から 26 日。運用場所:トンガ・タップ島のグッド・サマリタン・ビーチ。申請書:JARL 国際課にて入手可能、申請書の他に日本の免許の英文証明とパスポートの写しが必要。申請料:トンガ 20 ドル (1 年分)、米ドルで代替可能。電源:240V(プラグは O タイプ)。トンガでは CW 100W, SSB 200W と出力制限 (ピー



真面目に守っている現地局もそのことを知っていました。アマチュア局全体に迷惑になるのでそのようなことは止めて欲しいと思います。運用結果は 3.5MHz から 28MHz までの、CW, SSB で、約 2,900QSO でした。(1994 年 11 月記)」

写真 10. (左)A35XC 局を運用する三原正義氏。(右)アイボール QSO をした、A35XC 三原正義氏と A35CT グレグさん。

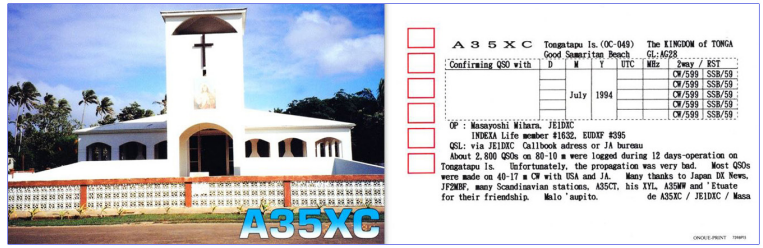


写真 11. A35XC 三原正義氏の QSL カード表と裏。

KINGDOM OF TONGA
Private Experimental (Amateur) Station Licence No.21/94

In pursuance and exercise of the powers and authority conferred upon the Prime Minister by the Radio Communication Act, a licence is granted to Masayoshi Mihara to establish a Private Experimental (Amateur) radio Station at Good Samaritan Inn and to operate the said station in accordance with the particulars in the schedule hereto until 30th June 1995

The installation and operation of the said station shall be carried out in accordance with, and this licence shall be subject to, the provisions of the said Act and Regulations made thereunder and such amendments and additions thereto as are made from time to time.

Issued by Authority of the Prime Minister

Date: 7 - 7 - 1994



SCHEDULE

- CALL SIGN: A35XC
- AUTHORISED TRANSMITTING FREQUENCY BANDS:
MF BAND (kHz): 1800-2000
HF BANDS (kHz): 3500-3900, 7000-7100, 10,100-10, 150 (a), 14,000-14,350, 18,068-18,166, 21,000-21,450, 24,890-24,990 and 28,000-29,700.
VHF BANDS (MHz): 50-54, 144-148.
UHF BANDS (MHz): 430-440 (a), 1240-1300(a), 2300-2450 (a) (b).
SHF BANDS (MHz): 3300-3500 (a), 5650-5850(a)(b), 10,000-10,500 (a), 24,000-24,050 (b), 24,050-24,250 (a) (b).
EHF BANDS (GHz): 47-47.2, 75.5-76, 76-81 (a), 144-146, 146-148 (a) 241-248 (a) (b), 248-250.

NOTES:

- The amateur service is the secondary service in this band.
- The whole or part of this band is designated for industrial, scientific and medical purposes. Radiocommunication services operating within the band must accept any harmful interference that may be experienced from the operation of industrial, scientific or medical equipment.

3. TYPE OF EMISSION AUTHORISED:

All bands: A1A, A3E, R3E, H3E, J3E, A3C (±3 kHz), F1A (up to 850 Hz shift), F3E (±3 kHz), F3C (± kHz).
Automatic telegraph systems: F1B (up to 850 Hz shift), A2B (±3 kHz), and F2B (±3 kHz).
Slow scan television: A3F (±3 kHz), F3F (±3 kHz).
Bands above 52 MHz: NON, A2A, A2B, F2A, F2B and F3C (±8 kHz), PON.
UHF, SHF and EHF bands: C3F, K1A, K2A, L2A, M2A, K3E, L3E, M3E.

4. AUTHORISED TRANSMITTER POWER:

R3E, J3E-200 watts (Peak envelope power output from final stage) Pulse-120 watts (Peak envelope power output from final stage x duty cycle) Other emissions - 100 watts (Mean power output from final stage).

NOTE: THIS LICENCE MUST BE EXHIBITED WHEREVER THE STATION IS LOCATED. AN OFFICIAL RECEIPT IN RESPECT OF THE INITIAL LICENCE FEE OR ITS SUBSEQUENT RENEWAL MUST BE ASSOCIATED WITH THE LICENCE.

写真 12. A35XC 三原正義氏の免許状。

■ 1994 年 (仏領ポリネシア FOOMIZ, FOOAKI)

JA1BK 溝口皖司氏は、仏領ポリネシアでの運用を、3 エンティティの QSL カードと共に、アンケートで寄せてくれた (写真 13 及び 14)。「DXCC で OK になれば別カントリーとなる、マルケサス、オーストラル、タヒチの 3 か所から FOOMIZ の同一コールで QRV し、約 5,000QSO しました。(1994 年 8 月記)」

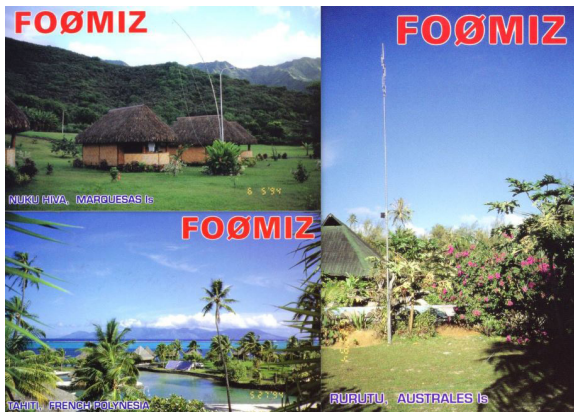


写真 13. FOOMIZ 溝口皖司氏の、同一コールでの 3 エンティティの、3 枚の QSL カード。

HAUT-COMMISSARIAT DE LA REPUBLIQUE EN POLYNESIE FRANCAISE
R.P. 115 PAPEETE (TAHITI)
CELLULE DES POSTES ET TELECOMMUNICATIONS
-o-o-o-

REPUBLIQUE FRANCAISE
LIBERTE-EQUALITE-FRATERNITE

LICENCE TEMPORAIRE D'EXPLOITATION D'UNE STATION RADIOELECTRIQUE PRIVEE D'AMATEUR

Le Haut-Commissaire de la République en Polynésie Française autorise :
Monsieur Kiyoshi MIZOGUCHI JAPON
à établir et à utiliser dans les conditions prévues par l'arrêté 1571 O.P.T. du 29 mai 1984 1 station(s) radioélectrique(s) d'amateur décrite(s) ci-dessous :

STATION(S) FIXE(S)	STATION(S) MOBILE(S)
NOMBRE :	NOMBRE : 1
CHARACTERISTIQUES :	CHARACTERISTIQUES : YAESU FT-747GX
EMPLACEMENT :	EMPLACEMENT : Hôtel Tahit Beachcomber Parkroyal (24 au 27/5/94) - Rurutu Village (27 au 30/5/94) - Keikahani Inn ou Nuku Hiva Village (du 31/5 au 11/6/94)

CLASSE A : Toutes bandes radioamateur

Le titulaire de la présente licence s'engage à respecter la réglementation d'ordre intérieur ou international intervenue ou à intervenir en matière de stations radioélectriques privées d'émission et à informer la cellule PTT du Haut Commissariat de la République de toute modification apportée dans les caractéristiques, la composition ou l'emplacement de ses stations. En outre, il devra se conformer aux conditions particulières d'exploitations indiquées ci-après :

Conditions particulières d'exploitation : La présente autorisation, valable pour trois mois au maximum à compter de la date du retrait de la licence par le titulaire, est limitée au trafic des radioamateurs dans les bandes de fréquences autorisées par le règlement des radiocommunications pour le région 3, en fonction de la classe affectée au titulaire.

INDICATIF ATTRIBUE : FOØ MIZ

Date de délivrance : 24 MAI 1994 Date d'expiration : 24 AOUT 1994

Fait en double exemplaire à PAPEETE, le 2 décembre 1993

Signature de l'intéressé



Pour le Haut-Commissaire par délégation le Secrétaire Général de la Polynésie française

Anne BOQUET

写真 14. FOOMIZ 溝口皖司氏の免許状。

JH1VRQ 秋山直樹氏は仏領ポリネシアの2つの島から、FOOAKI のコールサインで、7-28MHz, CW, SSB を運用したとアンケートを寄せてくれた(写真15)。「1994年6月1日から4日までマルケサス諸島のヌクヒバ島から2,950交信(その内、JAとの交信は1,220)。その後、7日から10日までオーストラル諸島のルルツ島から2,780交信(その内、JAとの交信は1,220)。その後、7日から10日までオーストラル諸島のルルツ島から2,780交信(その内、JAとの交信は1,670)。いずれも、使用したリグはTS-50Sと自作の7バンド(40～10m)GPアンテナ。(1994年12月記)」



写真15. FOOAKI 秋山直樹氏の、同一コールでの2エンティティの、2枚のQSLカード。

「あの人は今(第21回)」JR1NHD 田中真氏

米国で活躍され、今もアクティブなJR1NHD 田中氏の米国での運用については(その37)2016年4月号で、国連本部での運用については(その48)2017年3月号でそれぞれ紹介させて頂きましたが、その田中氏から近況をお知らせ頂きましたので紹介させて頂きます。「業務で米国とシンガポールに居住する機会があり、それぞれの地でAA2DI, 9V1ZWのコールサインを取得し、日本を離れてもアマチュア無線を継続することができました。そのおかげで国内外の多くの友人と出会い、今でも彼(女)らとの親交を続けられていることは、自分の人生にとって貴重な財産です。現在は、ビジネスから距離を置き、会社員時代に「できなかったこと、やりたかったこと」をひとつひとつ実行に移すべく毎日を過ごしています。その一つが、過去に居住した2か国および業務で訪れた国々への旅です。

2018年には、シンガポールを家族と訪問し、当時の仕事の同僚たちとの旧交を温め、また現地に駐在していた9V1KK 笠松さん(現DJ9KK)他無線仲間とのアイボールを楽しみました。その後、久しぶりに米国へ一人旅。親友のW4WTC, Terry Cantrellさんと、彼の住むジョージア州アトランタ郊外からオハイオ州のハムベション会場まで、遠くにアパラチア山脈を眺めながらロードムービーさながらに車で往復し、楽しい時を過ごしました。



写真16. デイトンハムベションにて、左からW4WTC, Terryさん、JR1NHD 田中さん、田中さんの友人3人。

2019年には、長年の念願がかない英国のライセンスを取得、現地在住の旧友である MDOCCE, Bob Barden さんのサポートを得て、日本の友人 2 人とマン島のコテージからそれぞれのコールで運用、JA を含む多くの局と QSO できました。実は 2020 年にもヨーロッパ地域からの運用を計画していたのですが、コロナの爆発的感染により断念せざるを得ず、2021 年も現状を見る限り実現は難しそうです。

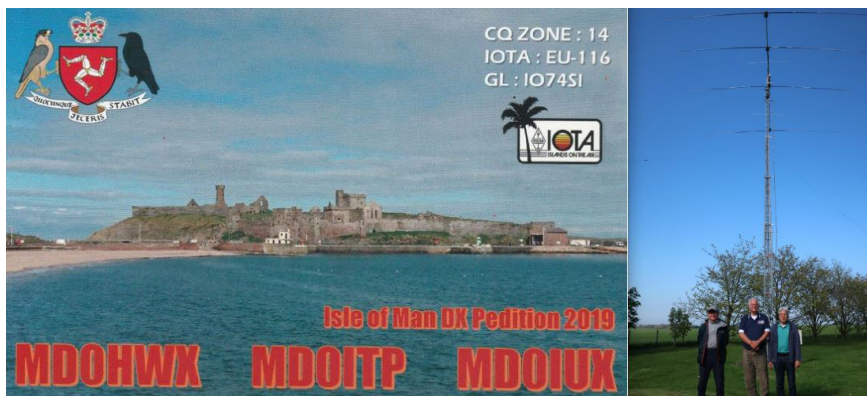


写真 17. (左) MDOIX 田中さんと日本の友人 2 人の共同 QSL カード。(右) MDOCCE 局のバックヤードのアンテナを背景に、左から、MDOITP 川内さん、MDOCCE, Bob さん、MDOIX 田中さん。

本来であれば、これまでの様々な経験を生かした若い世代に対する教育支援のボランティア活動を続けていたかったのですが、これもコロナの感染防止のために残念ながら一時中断することになりました。その時が来るまでは、自粛生活のなかで自己研鑽に励むつもりです。日本でのアマチュア無線活動は、居住するマンションの屋上使用許可は得られているものの、使用するアンテナの制約もあり、法的に許可された免許状の範囲で色々と工夫しながら、途切れることなくこの趣味を楽しんでいきたいと思っています。(2021 年 1 月記)」